

横浜市栄区セーフコミュニティ分野別分科会

防犯対策分科会

座長 保坂 順弥
発表者 岡田 忠男



防犯対策分科会名簿

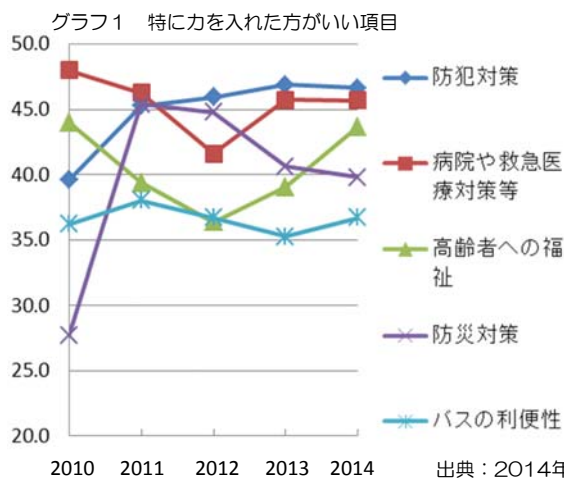
No.	構成	所属	名前
1	関連団体	栄防犯協会会長	保坂 順弥
2	関連団体	栄防犯指導員連絡協議会会長	岡田 忠男
3	関連団体	栄区保護司会会長	吉野 征
4	関連団体	栄区シニアクラブ連合会会長	西川 紀彦
5	関連団体	栄区消費生活推進員の会区代表	折田 藍子
6	関連団体	栄区商店街連合会会長	臼井 喜代士
7	行政機関等	栄警察署生活安全課長	田中 豊
8	事務局	栄区地域振興課 課長	早乙女 誠一郎
9	事務局	栄区地域振興課 地域活動係長	吉田 登
10	事務局	栄区地域振興課 地域活動係	樋下田 浩佑

表1 防犯対策分科会名簿



栄区民アンケート結果

- 特に力を入れた方がいい項目として、「防犯対策」が3年連続で最も高かった



2015年に防犯対策分科会を設立



刑法犯認知件数の推移

- 刑法犯認知件数は減少傾向にあるが、神奈川県や横浜市と比較すると減り方はやや少ない

表2 刑法犯認知件数の推移

	2012年	2013年	2014年	2015年
	認知件数	認知件数	認知件数	認知件数
		対前年比	対前年比	対前年比
神奈川県	76,511	76,962	67,295	61,664
		100.6	87.4	91.6
横浜市	29,440	30,266	26,017	23,543
		102.8	86.0	90.5
栄区	574	608	526	511
		105.9	86.5	97.1

出典：神奈川県警



栄区の刑法犯罪の内訳

- 2015年の刑法犯認知件数（514件）のうち、1位・2位は乗り物盗が占める。次いで、車上ねらい、振り込め詐欺、空き巣と続く

表3 刑法犯認知件数の内訳（2015年）

順位	目的	件数	割合
1	自転車盗	119	23%
2	オートバイ盗	35	7%
3	車上ねらい	33	7%
4	振り込め詐欺	27	5%
5	空き巣	25	5%
6	自動車盗	12	2%
7	その他	263	51%

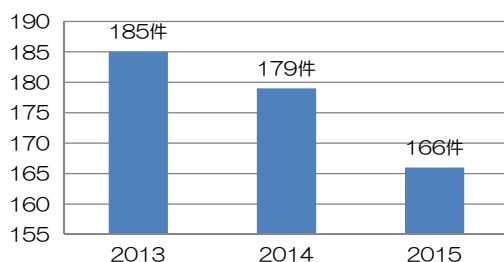
出典：神奈川県警



乗り物盗・車上ねらいへの対策

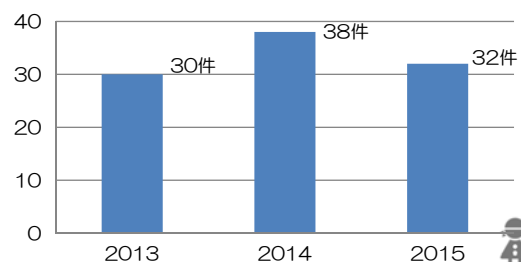
- 防犯対策分科会が設立される2015年までの間、乗り物盗の被害件数は減少傾向、車上ねらいの被害件数は概ね横ばい
- 乗り物盗・車上ねらいへの対策として、区連合町内会を通じた注意喚起や、情報配信サービスを活用した呼びかけ等、不特定多数の区民に対して啓発活動を実施

グラフ2 栄区内で起きた
自転車・オートバイ等の
乗り物盗件数



出典：栄警察署

グラフ3 栄区内で起きた
車上ねらいの件数

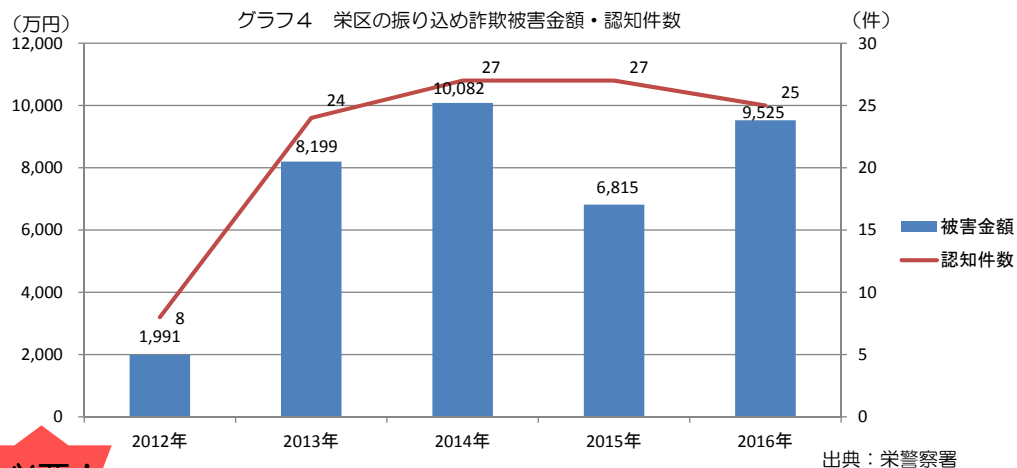


出典：栄警察署



栄区の振り込め詐欺の現状

□ 被害金額は2013年以降急増し、高い金額で推移している



必要！

振り込め詐欺への重点的な対策が必要



振り込め詐欺とは

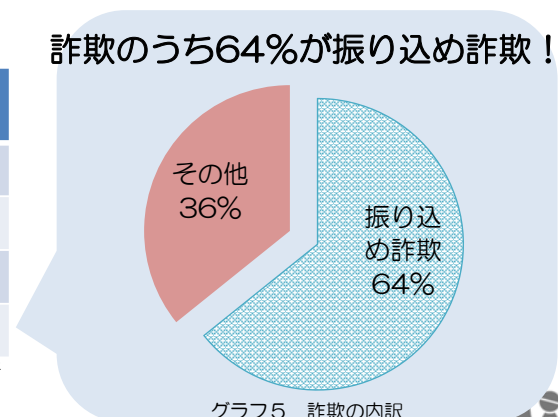
□ 電話をかけるなどして、直接顔を合わせることなく相手をだまし、指定した預貯金口座にお金を振り込ませるなどの方法で、お金をだまし取る犯罪。近年、詐欺のうち6割を振り込め詐欺が占めている

表4 栄区の詐欺件数のうち振り込め詐欺件数の割合

年	詐欺件数	うち振り込め詐欺件数	割合
2014年	40件	27件	67.5%
2015年	46件	27件	58.7%
2016年	37件	25件	67.6%
計	123件	79件	64.2%

出典：栄警察署

詐欺のうち64%が振り込め詐欺！

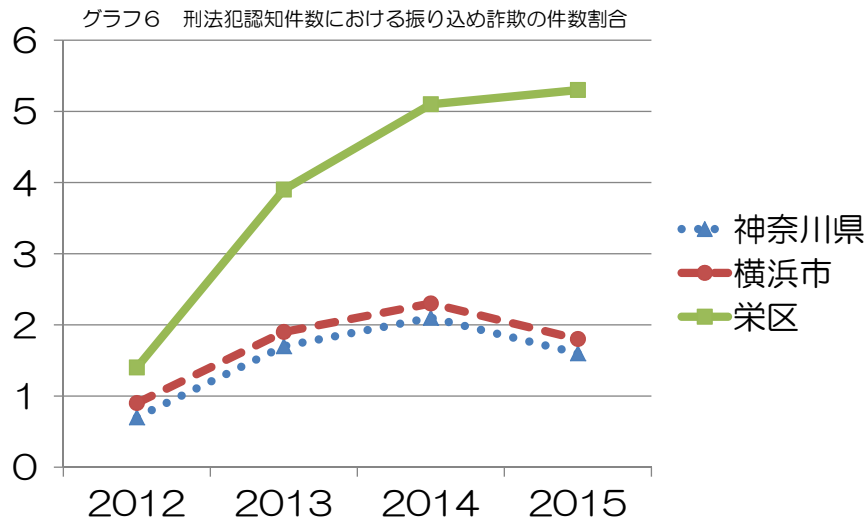


グラフ5 詐欺の内訳



振り込め詐欺認知件数の推移

- 刑法犯認知件数における振り込め詐欺の件数の割合は増加傾向にあり、神奈川県や横浜市と比較しても多い割合で推移している



出典：神奈川県警・横浜市市民局

振り込め詐欺の被害者層

- 被害者層の内訳をみると、男女別では女性が、年齢別では75歳以上が多い傾向にある

表5 被害者の男女別・年齢別内訳（2014～2016年）

	64歳以下			65～74歳 (前期高齢者)			75歳以上 (後期高齢者)			計		
	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計	男	女	男女計
振り込め詐欺の被害人数	1	3	4	6	22	28	15	32	47	22	57	79

出典：栄警察署



振り込め詐欺の被害とは

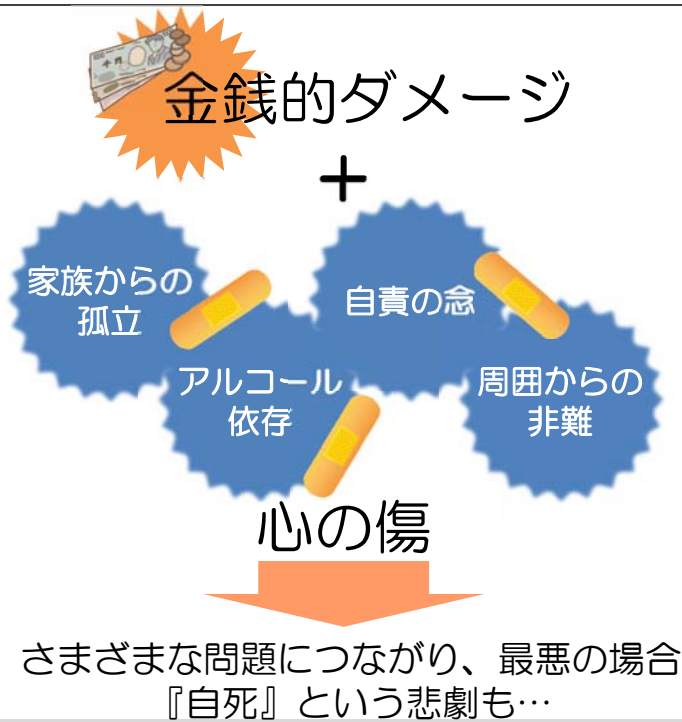


図1 振り込め詐欺の被害とは

図2 振り込め詐欺の被害に関する新聞記事

特殊詐欺減少、なお高水準

昨年1年間の特殊詐欺被害は前年比で6年ぶりに減少したが、依然として400億円台の高水準だ。被害者は金銭的損失によるメーシだけでなく、自責の念や周囲からの非難に苦しむ。中には悩みを誰にも打ち明けられず、自殺するケースも。専門家は被害者の心のケアに周囲の理解が必要だと指摘する。

・NPO法人「自殺防止ネットワーク風」の理事長を務める佐藤隆雄氏(さんじゆん)の元には5年ほど前から、全国の特種詐欺被害者からの相談が寄せられている。昨年は50件を超えた。夫の同僚を乗る男に500万円を渡し取られ、関東地方の30代女性は、「バカな嫁だ」と夫の家族に罵られ続けた。アルコール依存となり、自殺未遂を繰り返す。

被害者に心のケアを

「自責の念、周囲からの非難、孤立、自責の念、周囲からの非難、自殺も」

神奈川県の被害者。中部地方の40代男性は、被害に遭った即ちの祖母を、家族と一緒に責めた。その後、祖母は自ら命を絶つたという。被害者は「自分で自分を責め、家族にも責められる。誰にも相談できず、『自死』という悲劇が起きている」と語る。心の傷をどうケアしていくのか。NPO法人「全国被害者支援ネットワーク」は、各都道府県で犯罪被害者支援しているが、詐欺多発犯罪に関する相談は多くないという。また全国の消費生活センターは法的な助言が主で、心理面のサポートが不足している。

「被害者は『だまされることがない』という社会の風潮を要する」と担当する。国土領大の文芸学教授(被害者学)は「だまされることがない」といふ社会の風潮を要する」と担当する。

(出典：2016年2月2日 神奈川新聞)

課題と対策

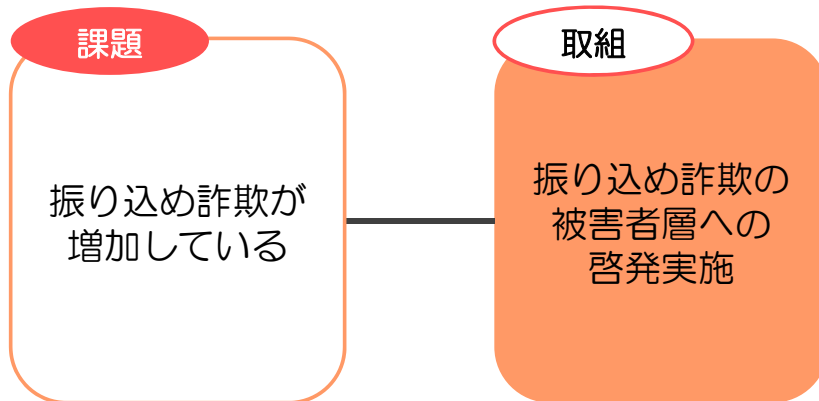


図3 課題と対策

取組 振り込め詐欺の被害者層への啓発実施

分科会委員が振り込め詐欺の被害者層である高齢者を対象に講座・講演を実施することで、振り込め詐欺に対する意識を深め、被害拡大を防止します。

- 自治会町内会等での出前講座
- 地域ケアプラザなど施設における講演



図4 栄区消費生活推進員の会による出前講座



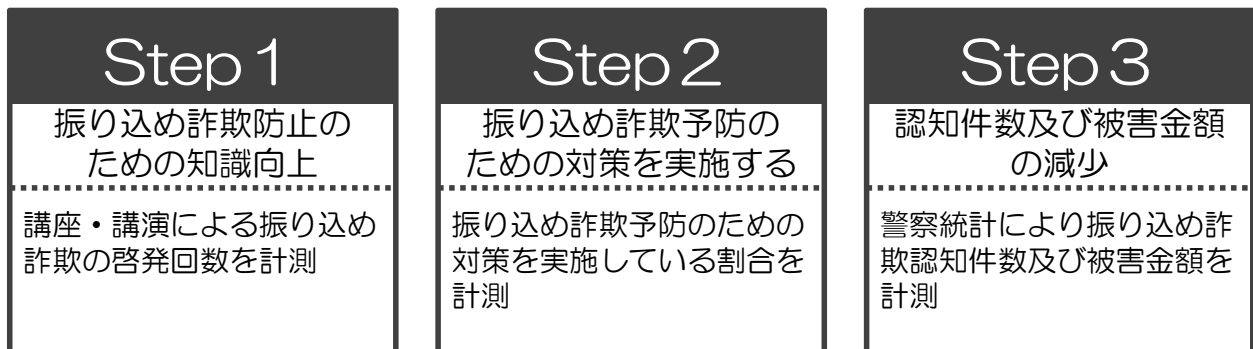
図5 米防犯指導員連絡協議会による寸劇・講演



13

取組 振り込め詐欺の被害者層への啓発実施

図6 取組の評価方法



14

取組 プログラムの評価（ステップ1）

- 講座・講演による振り込め詐欺の啓発回数は、今後増加していく予定である

表6 取組 プログラムの評価（ステップ1）

	2012	2013	2014	2015	2016
講座・講演による振り込め詐欺の啓発回数	—	—	—	30回	35回



取組 プログラムの評価（ステップ2）

- 被害者層を対象に、振り込め詐欺予防のための対策を実施している人の割合をアンケートにより把握していく予定

図7 アンケート実施予定項目

アンケート実施予定項目	はい	いいえ
■振り込め詐欺について どういう手口があるかっていますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■振り込め詐欺対策の知識について 留守番電話、家族間での話し合い、合言葉などの対策は？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■振り込め詐欺対策の実践について 知っているだけでなく、実践していますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
■ヒヤリハット事例について 不審な電話を受けたことはありますか？	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

	2012	2013	2014	2015	2016
振り込め詐欺予防のための対策を実施している人の割合	—	—	—	—	—

表7 取組 プログラムの評価（ステップ2）

取組 プログラムの評価（ステップ3）

- 振り込め詐欺の認知件数及び被害金額とも2013年から高い数値で推移している。今後も取組を続けることで、認知件数・被害金額の減少を目指す

表8 取組 プログラムの評価（ステップ3）

	2012	2013	2014	2015	2016
①認知件数（警察統計）	（8件）	（24件）	（27件）	27件	25件
②被害金額（警察統計）	（1,991万円）	（8,199万円）	（1億82万円）	6,815万円	9,525万円



その他の取組 不特定多数の区民に対する啓発実施

■街頭キャンペーン等による啓発

- 振り込め詐欺防止やネット犯罪に関する注意喚起などの啓発チラシの配布
- 区民まつり等イベントにおける啓発や交通安全対策と連携した取組
- 金融機関での声掛け



図8 街頭キャンペーン等による啓発①



図9 街頭キャンペーン等による啓発②



その他の取組 防犯パトロール

- 夜間における防犯パトロール
- 登下校時における見守り活動



図10 夜間の防犯パトロール



図11 登下校時の見守り活動



その他のプログラム

- 分科会構成員の協力を得て防犯灯をLED化し、防犯灯の照度を上げることにより、犯罪の発生抑止につなげている

【2014年度 電柱共架型】
横浜市 約115,000灯
栄区 4,724灯（原則全灯）

【2016年度 鋼管ポール型】
横浜市 約22,800灯
栄区 582灯（原則全灯）

図12 電柱共架型防犯灯



図13 鋼管ポール型防犯灯



その他のプログラム

表9 その他のプログラムの取組実績

	2012	2013	2014	2015	2016
街頭キャンペーン等における啓発回数	6回	6回	5回	5回	5回
金融機関での声掛け回数	6回	6回	6回	6回	6回
情報配信サービスの登録者数及び犯罪情報の配信件数	936人 179回	811人 186回	887人 150回	885人 210回	916人 102回
防犯キャップ・防犯ベストの配布枚数	—	—	—	—	99個 76枚

SAFE COMMUNITY

21

セーフコミュニティ活動による気づきや変化

- 振り込め詐欺の防止対策としては、日頃から家族間で連絡をとりあったり、地域内での顔の見える関係づくりなどコミュニケーションが重要であり、その広がりや安心感のあるまちづくりにつながる。
- 今まで個々に活動していた関係団体が連携することで、振り込め詐欺防止対策をはじめとした防犯対策に、より効果的に取り組んでいけるようになる。
- 区内の全犯罪認知件数の3割を占める乗り物盗については、現在セーフコミュニティで取組を行っていないが、今後検討する必要がある。

SAFE COMMUNITY

22

今後の方向性

- 振り込め詐欺の被害者層を対象とした啓発活動は、関係団体間でも連携を取りながら、引き続き重点的に取り組む。
- 家族間、地域内でのコミュニケーションの重要性を啓発するとともに、被害者層の子・孫世代に対しても啓発を実施する。
- 区内の全犯罪認知件数のうち32.3%（166件）が乗り物盗であり、特に自転車盗が119件と多数をしめるため、今後の課題として取り組んでいく。
- 栄区では凶悪犯罪は少数であるが、「割れ窓理論」により身近な犯罪件数を減らすことで、安全・安心なまちづくりを進めていきたい。



ご清聴ありがとうございました

